

年明け早々降り続いた雪も一段落、冬型ではあったものの 驚くほどの降雪も無く 穏やかな一月をすごさせていただきました。季節の寒さはさることながら インフルエンザも含め体調を崩す人も多く マルジンも例外でなく 入院者まで出て 現場段取りにあたふたいたしました。

治る病気や 降る雪も 時節を待てば完治 あるいは溶けて流れて行きます。

ただ 人の命は 失えばもう戻る事はありません。

あとひと月もすれば 東日本大震災から数えて4年、早くも4年なのか…もう4年なのか…

未だ行方不明の方もおられます。東日本大震災(余震を含む)について、警察庁がまとめた死者は10日現在、1万5887人、警察に届け出があった行方不明者は2615人となっています。

「東風吹かば においおこせや梅の花 主なしとて春を忘るな」

春になれば草花が一気に芽吹き 花を咲かせます。かけがえのない失った命は 戻る事はありません。

自然の力でたくさんの命を飲み込んだ震災、多くの家族や親交のあった人々が 折あるごとに思いだし悲しみを新たにしておられる事でしょう。人の命に値段を付けられるものではなく お金を積んだところで戻って来るはずはありません。

しかし、今まさに 戦闘地域では「人質マネービジネス」などというものがまかり通っている現状でもあり、蚊帳の外のように考えていた日本人が 標的となっているところです。

ジャーナリストの後藤健二さんを 拘束している「イスラム国」は 条件や期限を変えながら したたかに自分たちの要求を家族や当事国につきつけています。

当初は20億の身代金要求、その後は280億と値を吊り上げ 現在はヨルダンに拘束されているテロの実行犯との交換を持ち出し、真意のほどが測りかねる声明などをネット上に載せあげく非道な殺人。

いずれにせよ 日本はイスラム国に敵対する行為を行ったわけでもなく 戦闘にも参加していません。

それでも このような形で世界中を震撼とさせる「人質」の標的になっているという事実を忘れてはいけないのです。これからも 助けられる命であれば できる限りを尽くし 解放に向けてまい進していただきたいものですが このようなシリアのガイドですら危険だと止める場所へ 何故出かけて行ったか？

という経緯については 真意のほどを確かめ 今後の打開策に役立ててほしいものだと思います。

誰もその名を知らない1万8千余の命 人質とし世界のニュースに取り上げられない日は無い一人の命 どちらも かけがえのない命なのです。

「人の命は地球より重い」と言われます。でも 実際は その人を愛する家族から見て地球より重いと言うことはあっても 亡くなったときに他人が換算するのであれば「人の命＝生命保険」であり 特別な災害でもない限り 国から慰霊金のようなものは 残された家族に届くことはありません。

東日本大震災で死亡された方の遺族には、災害弔慰金が支給されています。支給額は、[1]生計維持者の方が死亡した場合 500万円 [2]その他の方が死亡した場合 250万円であり、震災により重度の障害を受けた方には、災害障害見舞金が支給されています。災害弔慰金・災害障害見舞金は、市町村から支給されるようです。

生命保険に未加入で なんの価値もない「ゼロ円」と算出される命がある反面 少しでも多くの方が自分のこと考え「重い命、高額な命」ととらえることによって 大きく変わっていくのですね。

震災被災の死亡者への500万という見舞金 人質救出の為に支払われる(直接でないにしても)身代金、「テロに屈しない」という行動を含め考えさせられるところの多いお話です。

お知らせとカレンダー

マルジン 2 月のカレンダー

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28

<モノレール技士って何?>

今月2枚目は

「モノレール技士認定規約」について
取り上げさせていただきました。

マルジンは1年以上の経験の社員全員が
モノレール技士 1級・2級取得しています。

2月第209回は～モノレール技士認定規約～について

1. (目的)

モノレール工業協会（以下、協会）に所属し、モノレールを製造するメーカー（以下、協会会員）が、モノレールの販売及びレンタルしたモノレールの取扱いについて、使用者及び協会会員、販売店、レンタル業者でモノレール事業に携わるもの（以下、関係者）の安全意識の向上のために設けることを目的とする。

2. (資格取得対象者)

モノレールの構造、取扱いについて熟知し、施工・メンテナンス・安全指導等を関係者に十分理解していただける説明ができ、協会会員がその取扱いを認めた者である。協会会員はモノレールの取扱いを周知徹底するため、協会が発行する資料（モノレール技士安全管理要綱）等を中心に必要に応じて講習を行い、認定を受ける者はこれに参加しなければならない。また、モノレール使用者は取扱主任者講習を受講しなければならない。

3. (資格制度)

(1) 1級技士

協会の資料に基づき、協会が説明を行い、協会の作成した筆記試験を実施後、合格者に交付するが、協会の技士認定委員会の承認を得るものとする。尚、受験資格は、協会会員で開発・製作・販売・施工・メンテナンス等に携わり、5年以上の経験を有し、かつ2級技士取得者とする。

また協会会員以外の者は、7年以上の実務経験があり、2級技士取得後6年以上経過して、かつ協会会員が推薦した関係者とする。

*モノレール工業協会技士認定委員会とは、モノレール工業協会の会長・副会長・技術委員長・副委員長で構成される技士認定機関である。

(2) 2級技士・3級技士（3級技士は8. ☆1の注意事項参照）

2級技士は協会と協会会員の資料に基づき、協会会員の1級技士が技術講習及び筆記試験を行い、協会が合格者に交付する。尚、受験資格として、販売・施工・メンテナンス等モノレールサービス事業に対して1年以上の経験を有するものとする。尚、メーカー限定とする。

(3) モノレール取扱主任者

モノレールの取扱責任者や使用者にモノレール技士が講習した後、協会会員が交付する。交付証は、協会会員統一として協会名とする。尚、1000kg積以上の機種はメーカー限定とする。

* (1)、(2)、(3)は、各地域の消防署で行っている救命講習を修了していることが望ましい。

4. (技士取得手続)

(1) 協会会員の取引会社は、取引協会会員へ申込書に写真3枚を添付して該当技士を申込む。

(2) 推薦を受けた協会会員は「協会用申請書」（3枚綴り）に必要事項を記入の上、(控)に写真を貼付けて残し、(正)は写真を貼付けて(副)と残りの写真1枚と一緒に協会事務局へ送付する。

(3) 合格者に対して協会事務局は、認定証を作成した後、申請書(正)を保管する。申請書(副)は、認定証と一緒に協会会員へ送付する。

(4) 協会会員は、申請書(控)と照合の上、取引会社に申請書(副)及び認定証を送付する。

(5) 取引会社は、協会の申請書(副)を保管し、認定証を各技士に配布する。

5. (費用) (1名に付) 消費税別途

	1級	2級	3級	取扱主任者
①新規申請費用	◎4000円	3000円	3000円	3000円
②資料代	◎4000円	5000～7000円	3000～5000円	2000円
③更新申請費用	◎4000円	3000円	3000円	
④講師費用		35000円	35000円	35000円
⑤教育講習費用	◎3000円	3000円	3000円	3000円

1. ④は、1回講習（1日まで）の基本日当とする。（35,000円/日）

2. 出張講習の経費は、実費（各社出張旅費規定）とする。

3. ①・③の◎費用の内1級は3,000円、2級・3級は2,000円を協会へ支払う。また、②の◎費用の全額と、⑤の◎費用の内1,000円は協会へ支払う。

4. 更新の場合は③を申請窓口に支払い、講習資料等が必要な場合の費用は別途とする。

5. 3級は、1級・2級・取扱主任者に属せず、モノレール施工が必要な会社に対して認定する。

6. 取扱主任者の更新は免除とする。（平成23年4月1日以降、取得・更新した者を対象とする。）平成23年4月1日以前に取得した者は次回更新時に窓口へ2,000円の費用を支払い、更新した以後の更新は免除とする。取扱主任者は定期的に教育講習を受けることが望ましい。

7. 平成25年4月1日以降に取扱主任者証を取得した者については、1000kg積未満の機種はメーカーを限定しない。平成25年4月1日以前に取扱主任者証取得者については、更新手数料を支払い、1000kg積未満の機種限定解除の取扱主任者証を取得するものとする。（更新手数料2000円）

なお、機種限定解除は1000kg積未満の協会会員の取扱う機種のみとし、現場において使用する機種が取扱主任者証発行メーカーと異なる場合は、取扱講習を受けなければならない。

8. 上記金額には、全て別途消費税が必要となる。

6. (講習内容) [必須項目]

(1) モノレール技士認定規約 (2) モノレール技士安全管理要綱

(3) モノレール事故例（ヒヤリハット集）

(4) 機械分解組立（技術テキスト・整備基準書・点検記録簿等）

(5) 施工基準書

(6) 安全取扱説明書（牽引車・乗用台車・荷物台車等）

(7) 乗用モノレール販売における乗車注意事項基準書他

(8) モノレール工業協会1級技士認定関連テキストと問題集他

（1級技士受験資格者に配布のみ）

* (1)～(7)は、2級技士講習内容で、(1)～(3)は共通項目であり、(4)～(7)は協会会員の講習によって資料が異なる。また、取扱主任者講習内容は(1)、(3)、(6)が必須項目である。

7. (技士の任務)

(1) モノレールの引渡し時に、その安全使用についての注意事項を使用者が、納得理解するまで十分説明しなければならない。

(2) モノレール技士は、点検表に基づいて始業点検と定期点検を行い、その記録を保管する。

(3) モノレール技士は、事故発生時に迅速かつ適確な対応を遂行すると共に、協会事務局へ事故状況の報告をしなければならない。

8. (技士の講習資格)

(1) 1級技士（協会会員）は、2級3級技士講習と取扱主任者講習を行うことができる。

(2) 1級技士（協会会員以外）は、3級技士講習と取扱主任者講習を行うことができる。

(3) 2級技士は、機種限定の資格内での3級技士講習と取扱主任者講習を行うことができる。

(4) 3級技士は、機種限定の資格内において取扱主任者講習を行うことができる。☆1

(5) 取扱主任者は、機種限定の資格内において他の作業員の指導をすることができる。

☆1の3級技士は、モノレールを副業とする、自社で資材を保有し、自社で設置・使用する会社に属する者で、その他は2級技士の資格制度に基づく。

9. (技士の教育義務)

(1) 技士（協会会員）は、常に自己研鑽を行い、技術力と資質の向上を図らなければならない。

(2) 技士（協会会員以外）は、認定証の更新時期までに協会会員の教育講習（有料）を受講しなければならない。

(3) 取扱主任者は、機種限定の資格内において、技士の教育講習（有料）を受講することが望ましい。

(4) モノレール技士認定店に所属する技士は、5年に1回以上の協会会員の教育講習（有料）を受講しなければならない。